

## 企業景況・動向調査

### ●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」新春講演会開催時に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

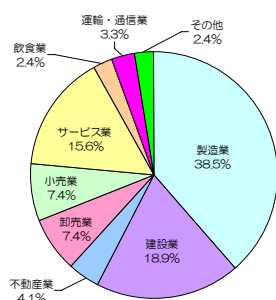
### ●調査概要

調査時期 : 平成 29 年 1 月 24 日 (火) 「せいしんビジネスクラブ 新春講演会」開催時

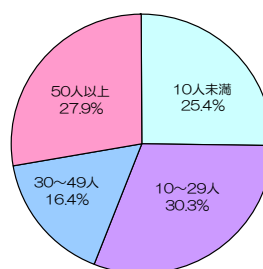
調査対象 : 静清信用金庫取引先企業の経営者で構成する異業種交流会  
「せいしんビジネスクラブ」会員

調査対象企業数 : 182 社 有効回答企業数 : 122 社 有効回答率 : 67.0%

《業種内訳 (n=122)》



《従業員規模内訳 (n=122)》



### ●要旨

～前期売上高は、約 4 割の企業が「増加」と回答。今期は約半数が「横ばい」の見通し。～  
～5 割を超える企業が「人材不足」に悩んでおり、採用に積極的な姿勢を示した。～  
～今後重視する経営課題 1 位は「コスト削減・業務効率化」、生産性向上を意識。～

#### ◆ 売上高および経常利益の実績と見通しについて

- ・前期の売上高実績は、「増加」とする回答が 37.7%で最多となった。
- ・今期の売上高見通しは、「横ばい」が 45.9%で最多となった。
- ・前期の経常利益実績は、「黒字」が 84.2%と大半を占めた。
- ・今期の経常利益見通しは、「黒字」が 84.0%と、収益環境は引き続き良好である様子が窺えた。

#### ◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況は、製造業では「不足」が 51.0%で最多となり、非製造業でも「不足」が 55.4%で最多となった。平成 28 年 7 月調査 (以下、前回調査) から「不足」は拡大傾向 (製造業+5.3 ポイント、非製造業+8.8 ポイント) にあり、5 割を超える企業が「人材不足」に悩んでいる様子が窺えた。
- ・今春 (平成 29 年 4 月) 以降の採用予定は、製造業では 55.3%、非製造業では 52.0%が採用に積極的な姿勢を示した。
- ・採用形態別の採用実施予定は、新卒採用が 31.1%、中途採用が 41.8%、非正規採用が 23.8%となり、当地区中小企業においては、「中途採用」による雇用確保が最も多い結果となった。

#### ◆ 設備投資について

- ・現在の設備状況は、製造業では「不足」が 51.1%で最多となり前回調査から 5.3 ポイント拡大した。一方、非製造業では「適正」が 70.3%で最多となった。特に製造業において設備の不足感が高まっている。
- ・今後の設備投資の予定は、製造業では「1 年以内に行う」が 34.0%で最多となり、前回調査から 5.2 ポイント拡大した。非製造業では「2~3 年以内に行う」が 31.5%で最多となり、前回調査から 0.4 ポイント拡大した。

#### ◆ 今後の懸念材料・経営課題について

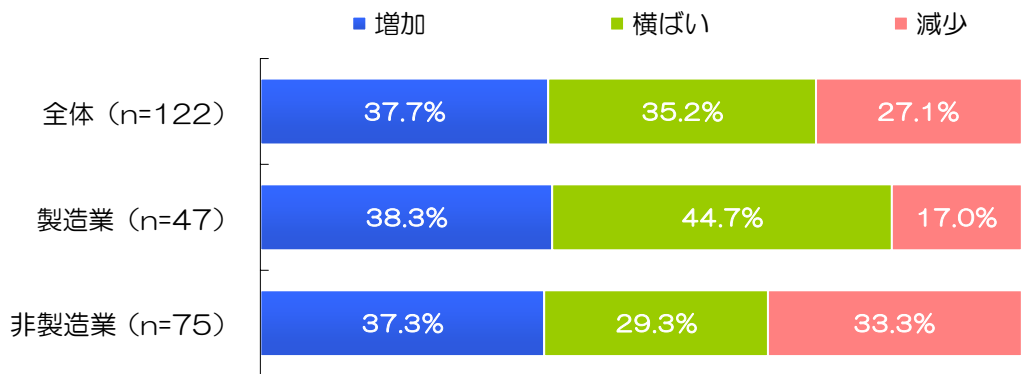
- ・今後の懸念材料については、「人材の確保」が製造業 (61.7%)、非製造業 (61.3%) とともに最多回答となった。一方、平成 29 年において重視する経営課題においては、「コスト削減・業務効率化」が製造業 (72.3%)、非製造業 (77.3%) とともに最多回答となり、人材確保よりも生産性向上を意識している様子が窺えた。

Copyright (C) 2017 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

# 1. 売上高の実績と見通しについて

## 1-1. 前期の売上高実績について

SA



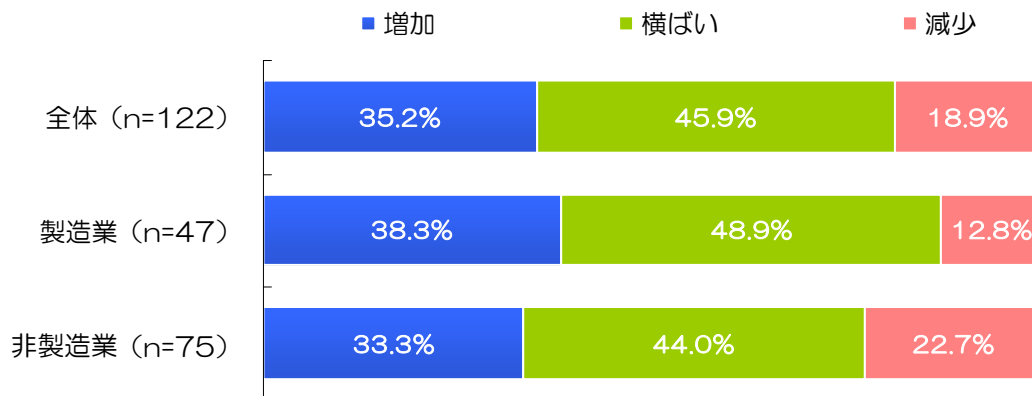
\*非製造業については、端数処理のため合計が100%とはなりません。

前期の売上高実績は、全体では「増加」が37.7%で最多となり、次いで「横ばい」(35.2%)、「減少」(27.1%)となった。業種別にみると、製造業では、「横ばい」が44.7%で最多となり、次いで「増加」(38.3%)、「減少」(17.0%)となった。非製造業では、「増加」が37.3%で最多となり、次いで「減少」(33.3%)、「横ばい」(29.3%)となった。

全体では、約4割の企業が「売上げが増加した」と回答しており、業況が良好である一面が窺えたが、製造業では「横ばい」、非製造業では「減少」との回答も多く、特に非製造業における業況悪化が目立った。

## 1-2. 今期の売上高見通しについて

SA



今期の売上高見込みは、全体では「横ばい」が45.9%で最多となり、次いで「増加」(35.2%)、「減少」(18.9%)となった。

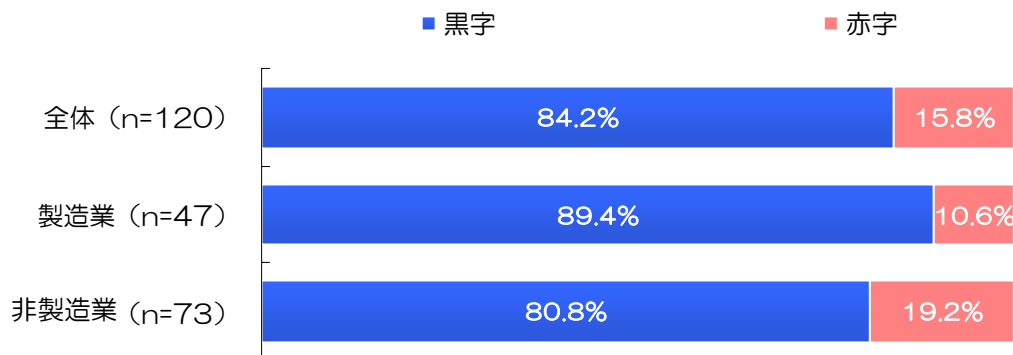
業種別にみると、製造業では「横ばい」が48.9%で最多となり、次いで「増加」(38.3%)、「減少」(12.8%)となった。非製造業では「横ばい」が44.0%で最多となり、次いで「増加」(33.3%)、「減少」(22.7%)となった。

全体では、半数近くの企業が、今期の売上を「横ばい」と見通しており、「減少」との回答が「1-1 前期の売上高実績について」での調査結果を下回るなど、一部では業況悪化に歯止めが掛かる見通しとなった。

## 2. 経常利益の前期実績と今期見通しについて

### 2-1. 前期の経常利益実績について

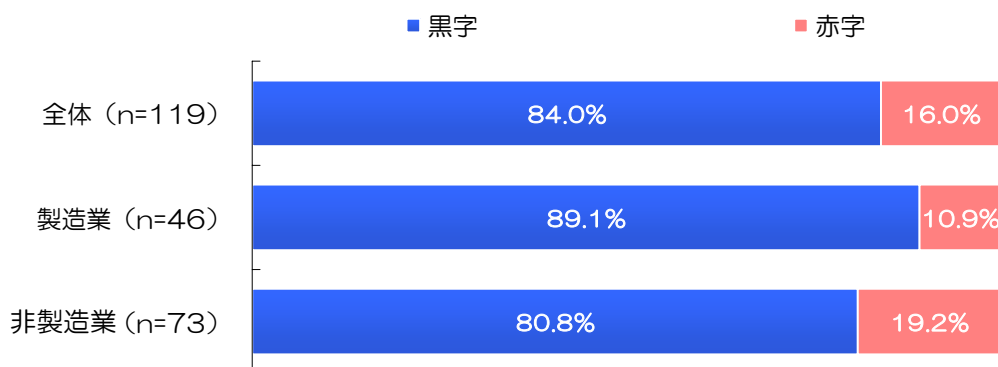
SA



前期の経常利益実績は、全体では「黒字」が84.2%と大半を占めた。業種別に見ても、製造業・非製造業ともに「黒字」と回答する企業が多く、特に製造業では約9割が「黒字」決算となった。

### 2-2. 今期の経常利益見通しについて

SA

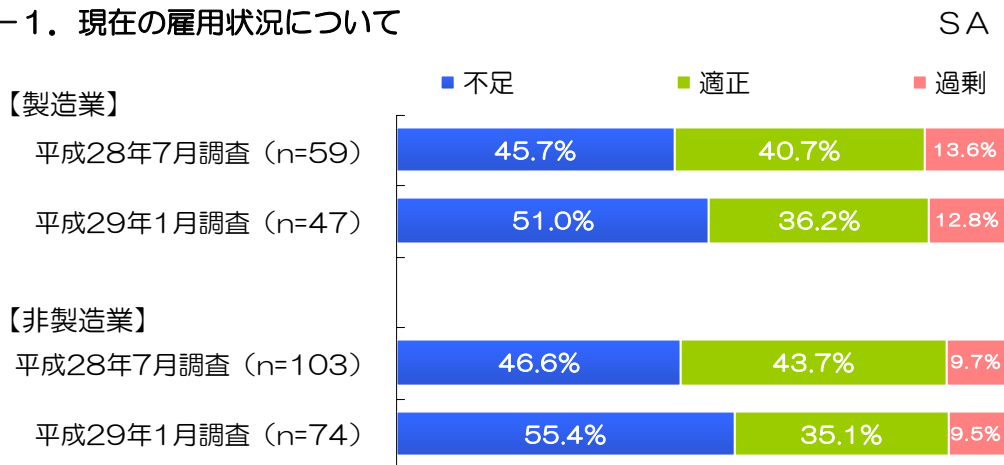


今期の経常利益見通しは、全体では「黒字」が84.0%と、「2-1. 前期の経常利益実績について」の調査結果と同様に大半を占めた。

業種別に見ても、製造業・非製造業ともに「黒字」と回答する企業が多く、特に製造業では約9割が「黒字」決算を見通しており、収益環境は引き続き良好である様子が窺えた。

### 3. 雇用状況について

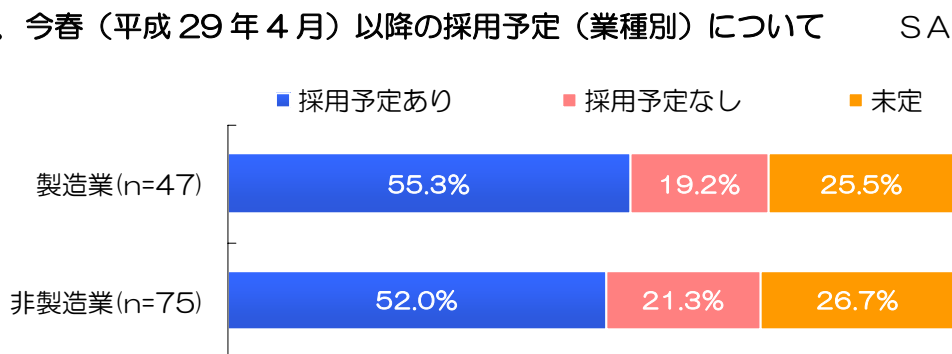
#### 3-1. 現在の雇用状況について



現在の雇用状況について尋ねたところ、製造業では「不足」が51.0%で最多となり、次いで「適正」(36.2%)、過剰(12.8%)となった。非製造業では、「不足」が55.4%で最多となり、次いで「適正」(35.1%)、「過剰」(9.5%)となった。

製造業、非製造業ともに、「不足」が前回調査より拡大(製造業+5.3ポイント、非製造業+8.8ポイント)しており、5割を超える企業が人材不足に悩んでいる様子が窺えた。

#### 3-2. 今春(平成29年4月)以降の採用予定(業種別)について

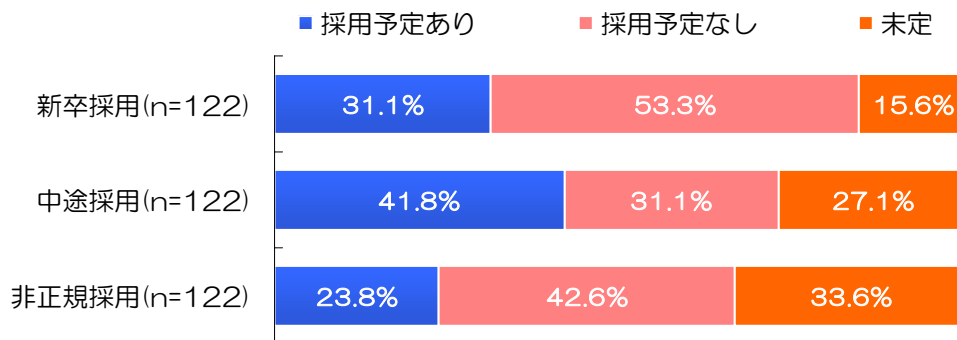


今春(平成29年4月)以降の採用について尋ねたところ、製造業では「採用予定あり」が55.3%で最多となり、次いで「未定」(25.5%)、「採用予定なし」(19.2%)となった。

非製造業では、「採用予定あり」が52.0%で最多となり、次いで「未定」(26.7%)、「採用予定なし」(21.3%)となった。

製造業、非製造業ともに、5割を超える企業が採用に積極的な姿勢を示した。

3-3. 今春（平成29年4月）以降の採用予定（採用形態別）について SA



今春（平成29年4月）以降の採用予定について、採用形態別では上図の通りとなった。

新卒採用については「採用予定なし」が53.3%で最多となり、次いで「採用予定あり」（31.1%）、「未定」（15.6%）となった。

中途採用については「採用予定あり」が41.8%で最多となり、次いで「採用予定なし」（31.1%）、「未定」（27.1%）となった。

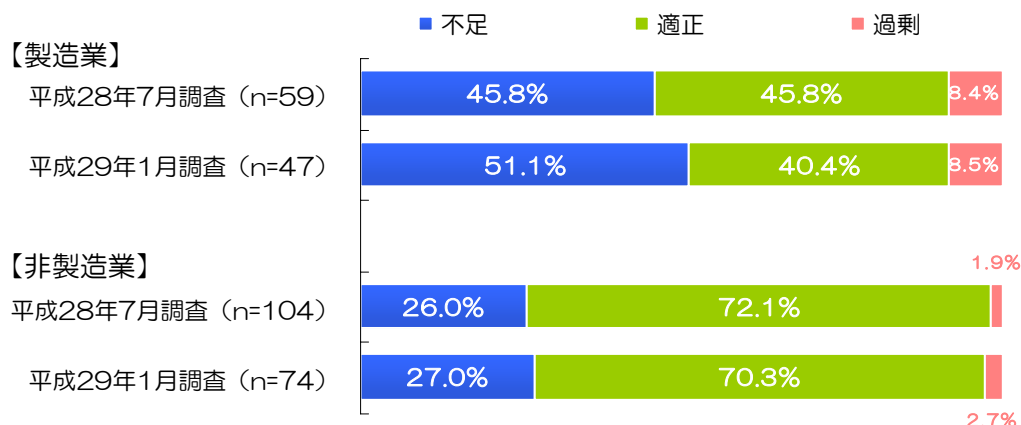
非正規採用については「採用予定なし」が42.6%で最多となり、次いで「未定」（33.6%）、「採用予定あり」（23.8%）となった。

当地区中小企業においては、中途採用による雇用確保が最も多く、新卒採用を行う予定の企業は約3割に止まった。また、「未定」とする企業が一定数おり、状況を見極めている様子も窺えた。

## 4. 設備投資について

### 4-1. 現在の設備状況について

SA

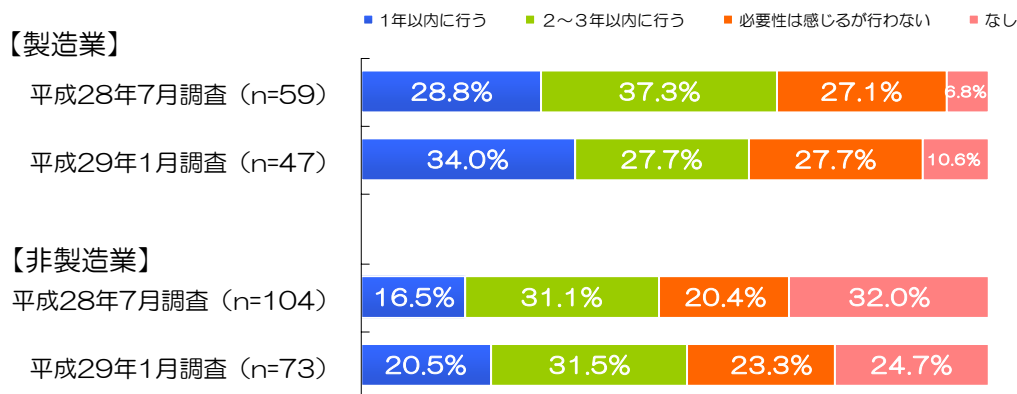


現在の設備状況について尋ねたところ、製造業では「不足」が51.1%で最多となり前回調査から5.3ポイント拡大した。次いで「適正」(40.4%)、「過剰」(8.5%)となった。非製造業では、「適正」が70.3%で最多となり、次いで「不足」(27.0%)、「過剰」(2.7%)となった。

特に製造業において設備の不足感が高まっており、過半数が設備不足の状態にある様子が窺えた。

### 4-2. 今後の設備投資の予定について

SA

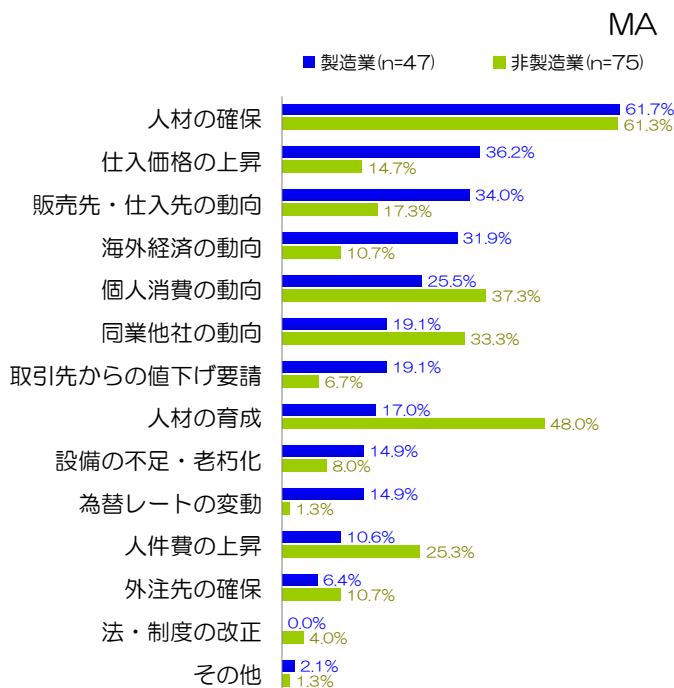


今後の設備投資の予定について尋ねたところ、製造業では「1年以内に行う」が34.0%で最多となり前回調査から5.2ポイント拡大した。「4-1. 現在の設備状況について」では、設備の不足感が高まり過半数の企業で設備不足が見られたこともあり、短期的な設備投資意欲は高まりを見せた。一方、「2~3年以内に行う」は27.7%と前回調査から9.6ポイント縮小しており、中期的な設備投資意欲は低下した。

非製造業では、「2~3年以内に行う」が31.5%で最多となり、前回調査から0.4ポイント拡大した。また、「なし」が24.7%と前回調査から7.3ポイント縮小し、「1年以内に行う」が20.5%と前回調査から4.0ポイント拡大するなど、短期的な設備投資意欲は若干高まっている様子が窺えた。



### 5. 今後の懸念材料について

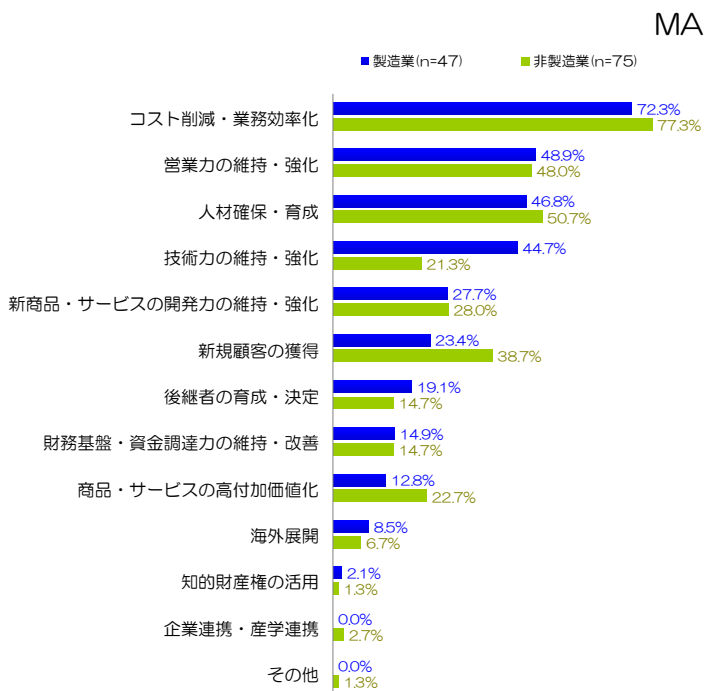


今後の懸念材料について尋ねたところ、製造業では「人材の確保」が61.7%で最多となり、次いで「仕入価格の上昇」(36.2%)、「販売先・仕入先の動向」(34.0%)となった。

非製造業では、「人材の確保」が61.3%で最多となり、次いで「人材の育成」(48.0%)、「個人消費の動向」(37.3%)となった。

「3-1. 現在の雇用状況について」では、5割を超える企業が人材不足に悩んでいる様子が窺えたこともあり、製造業・非製造業ともに「人材の確保」が突出して高い結果となった。

### 6. 平成29年において重視する経営課題について



平成29年において重視する経営課題を尋ねたところ、製造業では「コスト削減・業務効率化」が72.3%で最多となり、次いで「営業力の維持・強化」(48.9%)、「人材確保・育成」(46.8%)となった。

非製造業では「コスト削減・業務効率化」が77.3%で最多となり、次いで「人材確保・育成」(50.7%)、「営業力の維持・強化」(48.0%)となった。

「5. 今後の懸念材料について」では、「人材の確保」が突出して高かったが、今後の経営課題としては「コスト削減・業務効率化」を挙げる企業が多く、人材確保よりも生産性向上に向けた取組みを意識している様子が窺えた。

(静清信用金庫 経営相談部 平成29年2月作成)